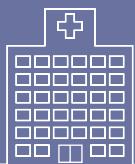


YOKA HOSPITAL NEWS

八鹿病院 ニュース



2016年
1月号

地域に暮らす人々と共に
心あたたかな医療をすすめたい



透析センターカンファレンスの様子

● yokahospital 「医療」

透析センター

- 新年のご挨拶
- インフルエンザ予防と受診のポイント
- 災害・火災時の当院のとりくみ
- トピックス

公立八鹿病院基本理念

私たちは、地域中核病院として、医の倫理を基本に、質の高い医療と優れたサービスをもって、住民の健康を守り、地域の発展に尽力します。



当院は**敷地内全面禁煙**です
ご協力宜しくお願い致します

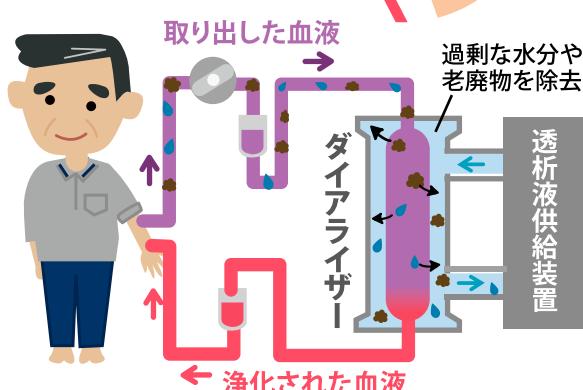


yoka hospital「医療」

透析センター

心に寄り添い、透析人生を支える

シャント造設された血管
動脈と静脈を結ぶことで静脈に多くの血液が流れるようにし、人工透析する上で必要な血液量が確保できる。



透析治療を受けている患者さんは全国に30万人以上あられ、年々増加傾向にあります。私達は患者さんとご家族の思いを大切にすることで、「心に寄り添い安全・安楽な透析を」と心がけています。

血液透析とは

腎臓の主な働きとして尿を作る、血圧を調整することが挙げられます。それは腎臓で血液を充分にろ過し、水分や老廃物のコントロールを行うことで機能しています。

血液透析とは、さまざまなものでほんんど機能しなくなつた腎臓に代わり、人間的に血液の浄化を行う治療です。まず、血液を体外

に取り出すためには、シャント造設という腕の静脈と動脈をつなぎ合わせる手術が必要となります。血液を体内から取り出し、血液透析器（ダイアライザ）を

通して血液を浄化し、きれいになつた血液を体内に戻します。一回4時間ほど

の治療を1週間に3回程度、一生涯続ける必要があります。

また、血液透析だけで、腎臓の働き全てを代行することはできません。その

ため、患者さんは、食事の管理や水分の管理、薬物療法等、日常生活の自己管理を同時に行う必要があります。当院では、うまく自己管理ができるよう医師や看護師、栄養士、薬剤師などが連携し、チームとなつて患者さんとご家族の支援をします。

当院の透析センターは、1980年（昭和55年）に始まりました。現在のベッド数は23床、50名前後

の患者さんが治療に来られます。その内、2割の方が入院患者さんです。

また、総合病院であるため、他施設で透析を受けて

おられる患者さんが怪我や病気、検査等で入院されま

す。その時は、透析を受けられていた施設と充分に連携し、スムーズに透析治療が継続できるように努めています。当院の透析センターは、近隣透析施設の受け皿としての役割を担つて

いるのです。

血液透析は、体外循環という危険な治療であり、高齢化や合併症を抱えた重症の方もあられ、透析センターは一時も氣を抜けない緊張した現場です。

私たちスタッフは日々研鑽し、チームワークで患者さんの透析人生を支え、心に寄り添える医療を提供できることをこれからも頑張っていきます。

専門スタッフに相談しやすい体制

透析中は看護師と臨床工学技士が常駐しています。患者さん一人ひとりを受け持ち看護師が担当しており、日ごろの疑問や自己管理についてなど相談しやすい体制を整えています。

また、定期検査のある日には管理栄養士がベッドサイドに訪問し、栄養相談に応じています。医師を始め、薬剤師、検査技師、医療ソーシャルワーカー等とも連携し、多職種協働で患者さんとご家族の支援を行っています。



くつろいで治療できる環境づくり

血液透析は1回の治療に何時間もかかるため、各ベッドにはテレビがとりつけてあり、音楽も流れています。少しでも心穏やかにくつろいで治療を受けていただけるよう、環境にも気を配っています。また、広いラウンジは、治療を待つ患者さんの交流の場や付き添いの方の休憩場所として利用されています。



—快適に透析を受けていただくために—

全身・シャント血管の状態チェック

定期検査（胸のレントゲン・血液検査）以外にも、腹部エコー・CTなど全身の評価や、シャント血管の状態を確認するためのエコー検査を行っています。

シャント血管は、血液透析をする度に使う血管です。透析患者さんにとっては命綱となる大切なものです。エコー検査で狭窄が見つかると、当院専門医の内科渋谷医師により血管を拡げる治療（シャントPTA）を行います。

合同カンファレンス・勉強会

毎月の合同カンファレンスでは、胸のレントゲンや血液検査を元に、受け持ち看護師を中心として、医師、臨床工学技士、管理栄養士と共に治療計画を見直し、患者さんに最適な透析治療を提供できるよう検討しています。また、研究会に参加したり、勉強会を開催して、知識の共有とスキルアップに励んでいます。

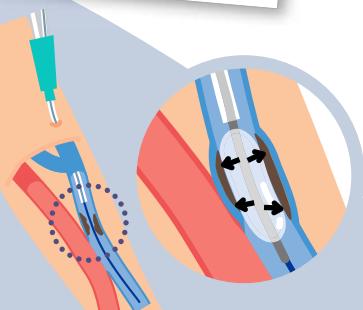
職種を超えたチームワークで、
私たちがサポートします！

狭くなったシャント血管の治療法

シャントPTA（経皮的血管形成術）



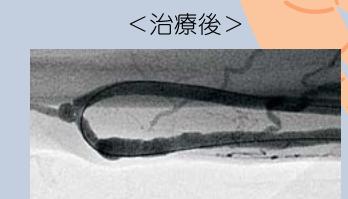
PTAは、詰まりかけて細くなった血管に対し局所麻酔で血管内にカテーテルを入れ、先端についたバルーンを使って血管を内側から拡張する治療です。シャントの作り直しに比べ身体的負担が少ないのが特徴です。



公立八鹿病院 内科 渋谷 純

兵庫県豊岡市出身。平成6年兵庫医科大学大学院卒業後、兵庫医科大学病院、柏原赤十字病院等を経て当院へ。

日本内科学会 認定医
日本循環器学会 専門医
日本脈管学会 脈管専門医
日本透析医学会 透析専門医
日本心血管インターベンション治療学会 認定医



シャント血管は、大量の血液が長期に流れるによる血管壁の障害や、日々の透析での穿刺・止血の繰り返しで、狭くなったり詰またりしやすくなります。



公立八鹿病院組合 管理者

富 勝 治

新年にあたり住民の皆様に御挨拶を申し上げます。昨年4月私は管理者就任に際し、八鹿病院組合の課題として①信頼される医療の提供、②経営改善、③健全で快適な職場づくり、の三つを挙げました。そしてこれらを実現する為の基本姿勢として「自分を大切に、他人（ヒト）を大切に」との言葉を職員一同に告げました。現状をみると、今最も相応しい言葉「新年明けましておめでとうございます」と書けないのが私の心境です。

(一) 「国・組織・個人」と構成規模に差はあっても、各々の行動には其々の思惑が働きます。せめて「組織・個人」のレベルに於いては「自・他共存」を行動の基本理念にしたいもの

です。この点に於いて我々は未だ努力の余地ありと判断し、「自分を大切に、他人（ヒト）を大切に」を再度職員一同に告げるつもりです。

(二) 平成25年の「地域包括ケアシステム推進プロジェクト（厚労省）」設置と26年の診療報酬改定を受けて、八鹿病院にも「地域包括ケア病棟」が設置されました。八鹿病院組合が地域の皆様の信頼を得る為の最優先課題は、この病棟が十分に機能する事であります。即ち『手術を含む急性期を乗り越えた患者さんが退院へ向けてリハビリ等を行い、一方在宅療養で一時的不安定状態に陥った患者さんが』かかりつけ医師の方針の下に短期入院に利用出来る病棟として機能する事です。

(三) 「心新たに」ヒトは生涯に（通常）一回は祝福を受けます。生まれた時と結婚式。ましておめでとうございます」と書けないのが私の心境です。



新年のご挨拶

公立八鹿病院 院長

谷 風 三 郎

新年明けましておめでとうございます。皆様にとって昨年はどのような年だったでしょうか。私にとっては、前半は病院の基礎固めに重きを置いて、できるだけ患者さんや職員と向き合ってお話しをお聞きすることを中心に活動をしました。後半は院内がかなり落ち着きを見せきましたので、一昨年実行できなかつた海外の学会に参加させていただきました。

昨年10月、プラハで欧洲小児泌尿器科学会とアメリカ小児泌尿器科学会が合同開催され、出席しました。記録的な寒さの中で会場内はホットな議論が続

きました。久しくぶりに刺激を受けたようを感じました。また、11月にはサンフランシスコで世界小児泌尿器科医会に出席し、多くの

古い友人に会うことができ、かつて、ここでも熱い議論ができて、楽しい時を過ぎし、refreshすることができました。

さて、今年は引き続き患者さん中心の医療、安心できる先進的な医療の提供を第一目標にします。そして、診療に幅をもた



欧洲小児泌尿器科学会会长
Tony Manzoni 先生と；プラハにて

せるため、昨年にも増して周辺大学を訪問し、医師の増員を図りたいと思います。それは言つても、決して容易なことではありません。でも、粉骨碎身努力することをお約束いたします。しかし、当院は専門病院ではありませんので、すべての疾患に対応することは不可能です。そこで昨年3大学、2専門病院と連携の手続きをお願いしました。連携先は、両玄関に掲示しております。当院で治療困難な疾患は、しかるべき紹介をさせていただきたいと考えております。もちろん、専門的な治療が終了すれば、こちらで治療を続けられます。

最後にすべての職員が笑顔で挨拶がで、患者さんが少しでも癒されるように指導していきます。今年が、みなさまにとつて苦痛のない、幸せな年になりますように祈っております。

ワクチン接種で予防!

ワクチンが3種から4種へ

ワクチンの予防接種は、小中学生から大人までの年代なら、7～9割、65歳以上の健常な高齢者では45%の確率でインフルエンザの発症を阻止する効果があるといわれています。

今シーズンは、従来の3種類のものから4種類のウイルス型（A型2種とB型2種）に対応できるワクチンが導入されました。近年では、2月頃よりA型からB型インフルエンザの流行へ変わる傾向にあります。B型ウイルスへの守備範囲が広がることで発症が少なくなることが期待されます。

身近な方法で予防！

マスク・手洗い・うがい・湿度調整

どんなに気を付けていても、私たちは想像以上にたくさんウイルスと隣り合わせにいます。これらは基本的なことですが、とても効果的な予防法です。

外出時にはマスクを着用する

鼻・口を覆い接触を避ける、鼻の中の湿度・温度を保つ



外出後はうがい・手洗い励行

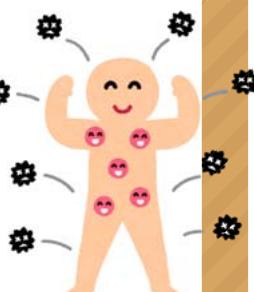
手に付着したウイルスをしっかり洗い流す。うがいはウイルスに荒らされた粘膜にさらに細菌がとりつく「二次感染」を防ぎ重症化予防にも効果大。

加湿器などで適度な湿度(50～60%)を保つ

空気の乾燥による粘膜の防御機能低下を防ぐ

インフルエンザ

予防と受診のポイント



インフルエンザかな？と思ったら まずは電話で受診相談をしよう



インフルエンザの疑いがある場合は、病院での交差感染を防ぐために、まず電話で相談し受診方法などを確認しましょう。

体内のインフルエンザウイルスは、発症直後と48時間以降は少ないために、実際には陽性でも検査で「陰性」となる場合が多くあります。確実な診断のためには、ウイルスが増殖する発症後12時間から48時間の間の検査が望ましいとされています。

治療薬については、症状を緩和させるだけでなく、ウイルスの侵攻そのものをくい止めるタイプの薬が主流になっています。ただ、それらの薬が効果を発揮できるのは、症状が現れてから2日以内。重症化を防ぎ、回復を早めるためにも適切な受診や服薬が重要です。

次の方は特にご注意ください

- 65歳以上の高齢者や乳幼児
- 妊娠している方
- 慢性的に肺疾患・腎臓疾患・心臓疾患のある方
- 糖尿病など代謝異常の方 など



うつさない！もらわない！
「咳工チケット」しよう

- ★ 咳ができる場合、うつさないためにマスク着用
- ★ 咳・くしゃみ時はティッシュで口と鼻を覆う
- ★ 鼻汁・痰のついたティッシュをすぐ蓋付きのゴミ箱に捨てる
- ★ 咳をしている人にマスクの着用を促す



10 / 3

但馬で地震が起きたら 集団災害訓練

毎年実施している集団災害訓練を今年も行いました。

休日の朝9時、朝来市で震度7の地震が起き、多数の傷病者が病院に運ばれてくる想定に対して、マニュアルに決められていること、アクションカードに指示されていることを確実に行えるか実践し、検証した上で、改善していくことが目的です。

また、例年は患者役を設定し、トリアージを行ったり実際に搬送したりしていましたが、今年は本部訓練を中心に行いました。災害時には、各治療ゾーンでの医療（処置）も大切ですが、災害という混乱した状況の中では、まず「指揮命令系統のしっかりした組織」の立ち上げ（確立）が最重要となります。それにより、より的確な情報の収集や分析を行い、判断・指示ができるように、職員への災害マニュアル周知と見直しを繰り返し実践していきます。

日常業務とは異なり、普段とは違うスタッフとの活動ということもあり、戸惑う姿もありましたが、訓練後は今後の対応の改善に向けて、活発で有意義な意見交換が行えました。



災害や院内火災時に素早く対応できるよう、毎年、集団災害訓練、自衛消防訓練を実施しています。

災害・火災時の当院のとりくみ



11／18

初の試み！アクションカードで自衛消防訓練

夜間想定による自衛消防訓練を実施しました。限られた人数の中、発生からアクションカードを使用し、出火病棟内への火災周知や初期消火を行います。その後、手順に従って出火病棟リーダーによる避難誘導指示や応援スタッフによる想定患者の避難誘導、避難後の患者安否確認を行うと同時に、防災センターから119番通報を行う一連の訓練です。

職員は真剣な面持ちで訓練を実施し、今回初めて使用したアクションカードで、各自の役割をしっかりと把握できることに加え、職員間の情報伝達の難しさを体験することができました。避難訓練終了後、南但消防本部養父署員より、熱心で非常に良い訓練であったとの講評を頂きました。今年は雨天により中止となりましたが、実際に消火器を使った訓練も毎年実施しています。

今後も年2回の訓練を行い、防災機器の取り扱いを学び、アクションカードの見直し等を行うことで、さらなる職員の防災意識を高めていきます。



【アクションカード】

緊急時に必要な責任範囲と行動がわかる行動の指標となるカード。具体的な指示が書き込まれています。



八鹿病院の防火設備や建物構造等もスタッフ一人ひとりが理解することで避難誘導がスムーズになるとご意見もいただきました。

9／6

伊豆地区（養父）の住民を対象にBLS研修を行いました

BLSとは、心肺停止に陥ってしまった方に対し救急隊が到着するまで行う救命処置のことをいいます。当日は雨降りの中、多くの方に集まっていたり、積極的な質問や実技で有意義な訓練になりました。勇気をもって対応できる市民を増やし、心臓突然死から一人でも多くの方が救命されることを目的に、今後もこのような活動に励みたいと考えてあります。



トピックス



12月1日～1月31日 クリスマスイルミネーション点灯

今年は、病棟の光庭から場所をうつし、東玄関前のくすの木をクリスマスツリーに見立て幻想的な光をお届けしました。期間中は、毎日午後4時から午後10時まで点灯し、窓から見られる入院患者さん、足をとめ携帯で写真をあさめる方、喜ぶお子様の姿などが見られました。

12月15日 院内クリスマスコンサート

コンサートでは、八鹿高校合唱部のみなさん、アール・ド・ヴィーヴルの二人、八鹿病院合唱団が、合唱や演奏を披露し、会場内を魅了しました。最後には、手作りのクリスマスカードを会場のみなさんにお配りし、全員できよしこの夜を歌いました。カードを手にされた入院患者さんが涙して喜んでくださる場面もあり、改めて院内コンサートの意義が深く感じられる嬉しい一日となりました。



八鹿高校音楽部の皆さん。
力強く優しい歌声が素敵！



我らが誇る、八鹿病院合唱団。



オカリナ&ピアノアンサンブルのアール・ド・ヴィーヴルさん。
一音一音気持ちのこもった素晴らしい音色でした。



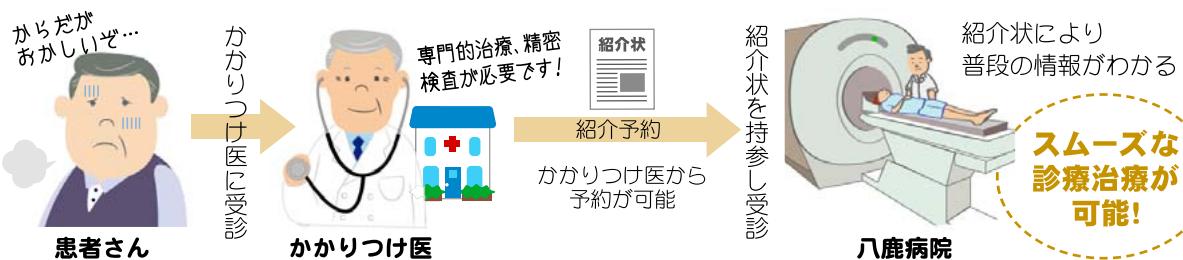
サンタ&トナカイからクリスマスカードをプレゼント。



みなさんに喜んでいただきました。

かかりつけ医へ通院中の方へ

かかりつけ医へ通院中の方で体調の異常がある場合、直接当院へ来られる前に、まず、かかりつけ医への受診をお勧めします。かかりつけ医の先生から紹介状を書いていただき、それを持参して来院してくださるようお願いいたします。



発行

公立八鹿病院 総務課

〒667-8555 兵庫県養父市八鹿町八鹿 1878番地 1 TEL. 079-662-5555 (代) <http://www.hosp.yoka.hyogo.jp>

